写真上　小瀬木さん（74）、写真下　太田さん（75）

今回は、令和5年11月に岐阜県シルバー人材センター連合会が主催した『剪定体験会』（就業体験会の1つ）で講師役を務められた太田さん（75）と小瀬木さん（74）に、シルバー人材センターの業務の1つである“剪定業務”ついてお話をお伺いしました。

お二人は講師が主業務ではなくて、美濃市シルバー人材センターの会員として“剪定業務”を日頃されているとのことですが、何年目になりますか？

太田さん ：9年目ですね。

小瀬木さん ：僕は8年目になるかな。

今回、講師を引き受けた理由は何ですか？

太田さん ：これまで『剪定講習会』を何度も開いていても、“剪定業務”は他の業務と違って短時間勤務じゃなくて1日仕事だし、外での作業だからか、なかなか成手（なりて）が増えないのが実状でね。
体が続く限りこの仕事をやるつもりでいるけど、僕らもいつまでもやれるわけではないから…。
「後継者を増やさないと。」と思って、今回の講師を引き受けることにしたんです。

小瀬木さん：後継者が育って欲しいのもあるけど、単純に『剪定講習会』で経験をして、「僕もできるな。」という人が一人でも増えるといいなってのもあって…。
剪定の依頼は多いのにやれる人が少ないから、シルバー人材センターでは依頼をお断りせざるを得ない時が多々あるんです。
需要に供給が追い付いていないこの状況は、美濃市だけではなくて、岐阜県内全体的な話でしてね。
だから、もし体験会で教えた人達がその先剪定を仕事に選ばなかったとしても、僕らの手が回らない先がひとつでも減るわけでしょう？
それもまた自分達の役割だと思っているんです。

写真上：『剪定体験会』で、参加者の質問に丁寧に答え、ノウハウをお見せするお二人。

シルバー人材センターには色々な業務がありますが、その中で“剪定業務”に就いた理由は何でしょうか？

小瀬木さん：退職前は「仕事を辞めたら遊べるといいな。」なんて思っていたんですけどね。
実際に65歳で退職したら、何も趣味がなく、何もやることがなくて…。
自分は何もしないのに、奥さんに3度の飯やお茶を用意してもらうことが何だか悪くてね、身が空いていることが辛かった。
それで、それからかな。家で剪定をするようになって…。
自分でもそれなりにやれるかなと思えるようになってから、銭儲けのためというより、規則正しい生活をするのが良いと思って、シルバー人材センターの“剪定業務”を始めたんです。

太田さん　：僕の場合は、叔父が庭師さんをやっていて、「手伝って。」と言われたのがきっかけですね。
その後、叔父の仕事以外にシルバー人材センターの仕事も段々受けるようになったって感じだったかな。

お二人はシルバー人材センターで就業する前に剪定の経験があったということですね。
シルバー人材センターで“剪定業務”をやりたいと考えている場合は、ある程度、技術が身に付いた状態で希望申請しないといけませんか？

小瀬木さん：10年、15年前にお庭ブームがあった頃は失業保険で3か月の剪定の授業があってね、その頃は手取り足取りではなく、「見て覚えよ。」という感じだった。
でも今のシルバー人材センターでは、質問を受けながらひとつひとつ丁寧に教えているから大丈夫ですよ。

太田さん　：始めるとなったら道具を買い揃えないといけない。
まずはシルバー人材センターの『剪定体験会』に参加して、やれそうか考えてみたらいいんじゃないかな。

先程、「成手が少ない」、「依頼をお断りせざるを得ない時が多々ある。」とお聞きましたが、どのような状況なのでしょうか？

小瀬木さん：美濃市シルバー人材センターには、剪定作業ができる方が10名しかいないから申し訳ないけど、新規依頼はなかなか受けられていない。
年中仕事は入っているけど、正月をきれいにして迎えたいからと思う方が多いからか、特に秋から正月が書き入れ時ですね。

太田さん　：木の種類によって剪定に適した時期は異なるんだけど、年に1度しか剪定できないなら、夏に切ってもまた枝が伸びてきちゃうし、春に備えてもう枝が伸びてこない10月から12月にやるのがいいってのもあるからだろうね。

“剪定業務”の依頼を受ける上で、気を付けていることはありますか？

小瀬木さん：他のシルバー人材センターではどうしているか分からないけど、美濃市シルバー人材センターでは依頼があるとセンターの職員さんが僕ら会員を依頼先に連れて下見に行って、料金の見積もりをしている。
その時に依頼者とのコミュニケーションを大事にしているよ。

太田さん　：そうだね、依頼者とのコミュニケーションはすごく大事なんです。
花芽がもったいなくても普通は綺麗に刈り揃えるものなんだけど、花が咲くのを楽しみにしていらっしゃる依頼者もいらっしゃるし。
屋根にかかるくらい大きくなりすぎた木の枝は、雨樋（あまどい）に落ち葉が詰まらないように切りたいところだけど、それもやっぱり自己判断ではなく、切ってはあかん木かどうか要望を聞かないとね。

小瀬木さん：大きくなりすぎた木の根が家の下に入り込んで盛り上げてしまう恐れがある場合もあって、そういう時は木を切って株にラウンドアップ枯死剤を打ち込む…とかってするんだけど、思い入れがある木かもしれないし。

太田さん　：他には、蔓（つる）が縁の下に這っている時は、下草を刈ってから家の縁の下に入ることもあるけど、勝手に作業してトラブルになってはいけないでしょう？
前以て依頼者から事情や要望をしっかりと聞いておいて、当日は依頼者が不在でも作業をやれるようにしておくって感じだね。

作業中には、どのようなことに気を付けていますか？

太田さん　：１人で作業をして怪我をするといけないから、必ず2人以上のグループを組んで仕事を受けること。それと…生垣を整えるだけじゃなくて、高木を剪定することもあるんで、そういう高所作業には注意が必要。
脚立は足場によって沈む時もあるし、木によっては幹の中が空洞になっている時のもあるから、よく確認しないといけない。

小瀬木さん：基本的に木の股に梯子を掛けて作業して、木には直接上らないようにしているけど、どうしても木に登らないといけない時には安全ベルトをしているよ。

他の業種と違う、“剪定業務”ならではの大変さはありますか？

小瀬木さん：１日で3mの松を3本もやることがあるけど、集中力が大変かな。
他には、一緒に作業をする仲間と仕上げのイメージを合わせるのも慣れるまでは難しいかも。

太田さん　：自然の中での仕事だから、当然のように虫刺されもあるわけでね。
僕も作業をしていて、アシナガバチやスズメバチにも何度か刺されたことがある。
だから、必ず殺虫剤やポイズンリムバーを持って行きます。

“剪定業務をしていて、やり甲斐を感じるのはどんな時？

太田さん　：暑い時はえらいし、蜂には刺されるし、大変なこともあるけど、依頼者に喜んでもらえるともうひと踏ん張りできるなぁ。
「きれいになったで、また来年もあんたさんらに頼みたいわ。よろしくね。」と言われると嬉しいもんでね。

小瀬木さん：ご高齢になって自分で庭の管理ができなくなった方のお宅に行ってやってあげると「きれいになったね。ありがとう。」とすごく喜んでもらえたり、代が替わった後でも信頼して依頼をし続けてもらえたりするのも嬉しいね。

太田さん　：そう言われると、やり甲斐や責任感がでてくるよね。

最後に。

何かを始めたいと思っても、今一歩を進みだせない方に向けて、メッセージをお願いします。

小瀬木さん：人と接して、お話しすることが生きがいになると思う。
けど、待っとっても誰も誘ってくれないでしょ。
自分から出て行って、誰かとコミュニケーションをとって、意見を聞いて動くってことが大事だと伝えたいですね。
だって、何かにつけても一人では続かないでしょう？

太田さん　：そうだね、このお仕事には仲間がいて約束があるから「行かなきゃ」って思える。
それが僕らの健康の源になっているよね。
65歳になって仕事を辞めてブラブラしている人を見かけるけど、今時は70代や80代になってもまだ元気な方って多いでしょう？
未だに新型コロナ感染症等の心配もあるだろうけど、何かしらに興味を持って参加してみるといいと思う。
その時にシルバー人材センターの「就業体験講座」にも参加してくれるとありがたいですね（笑）